

緩和ケア 萬田診療所

萬田緩和ケア診療所は、がん患者さんを専門に
外来診療・訪問診療を行う診療所です。

緩和ケア外来

1回1時間の外来を予約制で行います。外来通院は希望に応じて来院して頂きます。期間は数ヶ月から数年に及ぶこともあります。抗がん剤治療と並行しても可能です。紹介状は必要ありません。予約制です。

在宅医療・訪問診療

外来通院が困難な方には訪問診療という形で自宅で生きることを支えます。医師が月1度～毎週。訪問看護ステーションの看護師が訪問し自宅で生き抜く患者さん、そしてそれを支える家族を支えます。

がん相談

がんの疑いがある方。がんと診断され検査治療を受けたくない方。治療方針に不安疑問を感じている方。本人家族のお話を伺います。紹介状の必要はありません。予約制です。

萬田 緑平 1964年生まれ

平成 3年

平成 4年 ~ 平成 20年

平成 20年 ~ 平成 29年

平成 29年 6月 ~

群馬大学医学部卒業

群馬大学第一外科に所属、県内外の病院外科勤務

緩和ケア診療所・いっぽ 勤務

在宅緩和ケア医として約1400人の看取りに関わる

緩和ケア 萬田診療所 院長

私は現在、現場での仕事以外に「最後まで目一杯生きる」と題した講演活動を県内外で年間 50 回、計430回行っています。

ツイッターでも1400の文章を載せています。 <http://twilog.org/ryokuhei>

「twilog 萬田緑平」で検索してください

新聞雑誌などのメディアでも取り上げて頂き、ラジオ「大沢悠里のゆうゆうワイド」や、NHKの「朝イチ」と言う番組で嵐の櫻井翔さんのレポートという形で放映して頂きました。

「穏やかな死に医療はいらない」以下、著書が3冊あります。ホームページをご覧ください。

緩和ケア 萬田診療所

〒371-0852

前橋市総社町総社 1070-1

TEL : 027-289-6655

Mail : ryokuhei@kanwamanda.com

ホームページ : www.kanwamanda.com

*メールでの予約は受け付けていません

診察時間

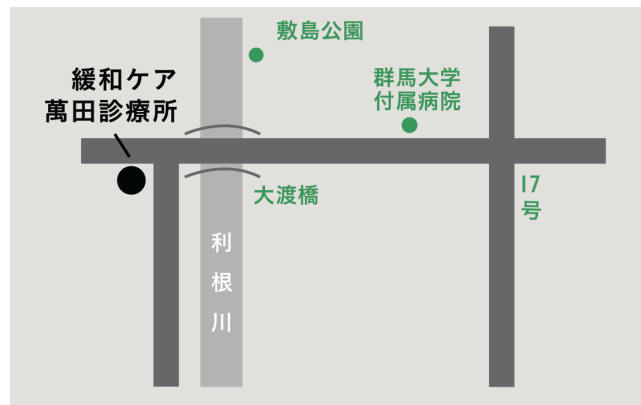
月曜～金曜

午前 外来診療 がん相談

午後 訪問診療

土曜

訪問診療のみ



*医療保険、介護保険による診療を行なっています

*日曜・祝日は休診日

緩和ケア 萬田診療所の緩和ケア

以前から、進行がんの患者さんには「早期からの緩和ケア」が推奨されています。余命が長くなるという有名な論文もあります。もちろん現場に立つ身からしても「早期からの緩和ケア」を受けた方が患者さんは楽に長生き出来ると感じています。

しかし現在の日本にはそんなシステムも、引き受ける医師も診療所ありません。

「がんは治療した方が長生きするに決まってる」
「治療をやめたら苦しむ、命を短くする」と思われているからです。

そんなことないのです！

「これ以上治療したら体がもたない」
そういう感覚に患者さんは自分で気づいて「治療をやめたい」と思っているいる事が多いのですが（本人が最も悩んでいます）

「頑張っって欲しい」と治療を続け、実際には亡くなる直前～1ヶ月位前に緩和ケアへ紹介されることとなります。

まだまだ緩和ケアは「死ぬ直前の医療」と受け取られているのです。

私は以前から、まだまだ普通に生活できる進行癌の患者さんを外来で長期間診ています。長い方は5年以上通院しています。「治療を諦める」のではなく「よりよく生きる」選択をしていると思いたいですね。

初診時は、患者さんは「なんで私が緩和ケアに、、、」と硬い表情で来院するのですが、帰るときは、「良いところに来た～」と穏やかな表情になって帰って頂けるようになって来ました。

それが嬉しいのです。

「在宅緩和ケア」は勿論ですが、「早期からの緩和ケア」を中心にやって行きたいです。

「病院には行きたくない患者さん」
「抗がん剤治療の効果の限界が見えて来そうな患者さん」

「がん治療、抗がん剤治療、検査をしたくない患者さん」

「治療継続に対する本人と家族の気持ちにズレが生じてきた（家族の希望で治療をしている）患者さん」

「がん治療を頑張りたい。しかし、頑張れない時もあるかもと思っている患者さん」

「できるだけ自宅で暮らしたいと思っている患者さん」

治療を続けたい人は続ければいい。がん治療中でも大丈夫です。

家族によるがん相談も受け付けています。紹介状はなくても大丈夫です。

通院が困難になれば、在宅ケア、すなわち訪問診療に移行し、最後まで生ききるためのお手伝いもさせていただきます。徹底的に「本人の好きなように」生きるのを手伝います。

本人の希望あれば、入院治療や緩和ケア病棟入院のお手伝いも勿論いたします。

がんと言われたら、苦しい最後が待っているわけではありません。「緩和ケア」はあくまで、体が辛くないようにするための治療であり、単なる手段です。

「死なないように生きる」のではなく

「死ぬまで辛くなく上手に生きる」
「出来るだけ楽しく暮らせる」
「最後まで目一杯自分らしく生きる」
手伝いをさせて下さい。

いや、そうしてくれるのは家族です。その家族を手伝うのが私の仕事なのかもしれません。